志賀直哉年譜考（十七）

――明治四十三年一月から六月まで――

生井知子

明治四十三年（一九一〇）（数え二十八歳・満二十六歳～二十七歳）

1・1（土）　箱根に滞在中の父・志賀直温から、妹弟を連れて来るよう誘いの電話があり、直哉は承知する。青山墓参後、大巻と会う。白樺会で武者小路実篤・正親町公和・木下利玄が志賀家に来宅。（日記）

1・2（日）　直哉は、志賀英子・淑子・隆子をつれて箱根に行く。（日記）

1・3（月）　直哉は志賀直三を迎えに行く。大湯で泳ぐ。夜は家族合せなどをして遊ぶ。（日記）

1・4（火）　直哉は《来た時は父に対し何となく調子が悪かつたが今日あたりから何事も自然になつた、》と日記に記す。かすみ網で鳥を捕る。（日記）

御影にて柳宗悦が郡虎彦と寄せ書きで、直哉に葉書を書く。（『柳宗悦全集』）

1・5（水）　一家は帰京。すぐに直哉は大巻の所に行く。（日記）

1・6（木）　午前、直哉は武者小路実篤と正親町公和を訪問。田中雨村も来る。平河天神内の公民会で田中雨村と玉突きの勝負をして負ける。（日記）

1・7（金）　昼過ぎ、松平春光が志賀家に来宅し、ハルピンに行くかも知れないと言う。夜、柳宗悦と武者小路実篤が来宅。直哉

は柳に神戸の話を聞く。（日記）

1・8（土）午後、郡虎彦が志賀家に来宅。正親町公和の所で集まる筈だったが、直哉は作品が出来ていなかったのでやめる。（日記）

直哉は、《紫転手》に結った大巻、五十四、五歳の新造・お咲、お豊どんとの会話を描いた未定稿112執筆。（未定稿112）

＊《紫天神》は一番上に立つ女だけに許された髪だった。（石原亨『証言　里見弴　志賀直哉を語る』）

1・9（日）直哉は大巻に会いに行く。大巻のことが頭について苦しい。（日記）

1・10（月）午後、直哉は武者小路実篤を訪問。正親町公和が来ている。河本亀之助を訪問して印刷代のことを聞こうとするが不在。夕方、正親町と花村に行く。（日記）

1・11（火）雪。直哉は林三郎の家に寄った後、大巻の所へ行く。雪の朝、角海老楼の四階から二人で廓の大きい屋根を眺めたいと思った。蓄音機を聴く。直哉の他に三人の客がいた。（日記）

1・12（水）朝、直哉は角海老楼で一人で雪見。直哉の他二人の客が残る。午後、直哉は、お咲・お春と話す。（日記）

1・13（木）直哉は、青山墓参。武者小路実篤の家へ行き、二人で田中雨村を訪問。（日記）

1・14（金）夜、直哉は柳宗悦を訪問。武者小路実篤も来ていた。（日記）

1・15（土）午後、直哉は三島弥吉の家に招待されて行く。裏松友光、斎藤博、北島貴孝、徳川慶久、正親町公和、二条厚基、武者小路実篤、吉田良正らと夜まで愉快に遊ぶ。（日記）

1・16（日）午後、直哉は武者小路実篤を訪問。平和協会に行くのをやめて正親町公和を訪問。田中雨村も来る。（日記）

1・17（月）直哉は夏目漱石『それから』を読む。（日記）

1・18（火）青木直介が志賀家に来宅。田村寛貞も来る。（日記）

1・19（水）午前、直哉は『それから』読了。午後、正親町公和が志賀家に来宅。夜、一緒に里見弴を訪問。正親町の帰宅後、し

ばらく将棋を指し、直哉は大巻の事を打ち明ける。（日記）

直哉は、明治四十年秋からの里見弴と四十にもなる女中・八重との関係を、煙草屋の女との事として聞かされる。（里見弴『君と私』三十五）（里見弴『善心悪心』）（『暗夜行路』草稿12一）（『暗夜行路』草稿13）

1・20（木）午後、里見弴が志賀家に来宅。夜、直哉は里見弴を誘って吉原を見学する。帰り、若竹亭で小さんの「小言幸兵ヱ」を聞く。（日記）（里見弴『君と私』三十六）（『暗夜行路』草稿12一）（『暗夜行路』草稿13）

1・21（金）朝、郡虎彦と柳宗悦が志賀家に来宅。午後に武者小路実篤、夕方に木下利玄が来宅。夜、直哉は田村寛貞の所に行き、蓄音機を聴く。（日記）

1・22（土）直哉は、終日在宅。ゴーリキー『モーラス・ヨーカイ』を少し読む。夜、岩下家一と話す。武者小路実篤の『画家』を読む。（日記）

武者小路実篤が、雑誌は一月中にいい名がなかったら「白樺」にしようと思うがどうかということを直哉から柳宗悦や郡虎彦に聞いて欲しいとの葉書を直哉に送る。この日、回覧雑誌「白樺」を綴じる。（『武者小路実篤全集』）

1・23（日）午後、直哉は五、六年ぶりに相撲を見る。夜、武者小路実篤の所に行く。里見弴もいる。（日記）

1・24（月）朝、直哉が岩下家一と父・志賀直温の部屋に行くと、父は《独立する気でやつてもらはねばこまる》《それで食へなければ勿論食はしもする着せもする》《祖父母の教育が父母に遠けたのが悪い》《先妻も泣いてゐた事があります》と述べ泣く。直哉も泣く。父は八年程前から《貴様の事ではもう涙も出なくなつた》とよく言っていた。父が直哉の事で涙を流したのは八、九年ぶりの事。母の墓に詣でる。夕方、里見弴と散歩。歌舞伎座で「桜鍔恨鮫鞘」を立ち見。月島に渡り、洲崎を見物する。（日記）（『続々歌舞伎年代記』坤の巻）（里見弴『君と私』三十七）

1・25（火）武者小路実篤が志賀家に来宅。夕食後、直哉は柳宗悦の家に行くが不在で、正親町公和の所に行く。（日記）

1・26（水）雪。直哉は正親町公和を電話で呼んで雪見に行く。夜、柳宗悦が来宅。（日記）

1・28（金）　咲と行くからと大巻に誘われ、直哉は深川の初不動に行く。大巻は春を連れてきた。その後、直哉は武者小路実篤の家に行き、夜、共に里見弴の家に行く。（日記）

1・29（土）　前日志賀直方から電報で呼ばれたので、直哉は片瀬に行く。二十四日のことを直方は喜んでくれる。（日記）

1・30（日）　直哉は帰京。三島弥吉から呼ばれ、夕方同窓会に行く。（日記）

1・31（月）　林三郎が志賀家に来宅。（日記）

2・1（火）　直哉は、夕方から神明の怪しい家に行く。里見弴が三、四日前に初めてアドヴェンチアをしたと聞き、《彼は中々に所謂太い男である》と日記に記す。直哉は岩下家一の借金申込みについて志賀直温から意見を求められ、直温は直哉の意見に従う。直温から相談を受けた事を嬉しく思う。《あれ程の関係になつてゐた父とダン〳〵親しみ得る事が不思議な位に思ふ。》と日記に記す。（日記）

2・2（水）　松平春光が絵を持って志賀家に来宅。夜、直哉は、柳宗悦の家に行き、得能良介の学習院退院の話を聞き、『退院騒ぎ』を小説にしようと思う。（→後の未定稿105『小説　退校騒』、「ノート9」補⑥P233『退校騒ぎ。』、P247『柳得能の退校騒（喜劇）』）九時の汽車で発つ岩下家一を新橋に送る。（日記）

2・3（木）　直哉は夜、洲崎に行く。（日記）『小説　泥酔』を執筆。（未定稿113）

2・4（金）　午後、直哉は正親町公和を訪問し、夕方帰宅。夜、柳宗悦が志賀家に来宅。（日記）

2・5（土）　直哉は武者小路実篤の家に行き、午後一緒に正親町公和を訪問。夜、木下利玄、田中雨村、里見弴が来る。（日記）

2・6（日）　午後、直哉は田中雨村の所へ玉突きに行く。夜は柳宗悦を誘い、有楽座のペッツォルト夫人の音楽会に行く。（日記）

2・8（火）　志賀直温に頼まれ、直哉は大井村の土地を武者小路実篤と見に行く。午後、築地の活版所に行く。田中雨村の家、里見弴の家に行く。（日記）

2・9（水）　午後、里見弴と郡虎彦が志賀家に来宅。夜、直哉は里見弴とふくの所に行く。（日記）（里見弴『君と私』三十七）

2・10（木）夕方、児島喜久雄が志賀家に来宅。夜、皆集まって雑誌について相談。雑誌名は「白樺」となり、口絵が決まる。郡虎彦のボーカル・ソロ、直哉の「壷坂霊験記」等で騒ぐ。十一時過ぎに皆辞去。郡虎彦のみ泊る。（日記）（里見弴『君と私』三十八）

＊里見弴『君と私』（三十八）によれば、「若木」「声」「人」「薮」「麦」「草」「流」などの候補もあった。

＊M44・5「白樺」の「編輯室にて」によれば、「若木」「声」「人」「薮」「白樺」「麦」「草」「流」などの候補があり、「草」が好きな人が多く、一旦はそれに決まったが、その後、そういう雑誌が神戸にあって最近つぶれたと教えられて、また相談し、「望野」連のその時分の回覧雑誌の名前だった「白樺」が出ず入らずでいいだろうという事になった。

＊座談会『「白樺」座談会』によれば、色々な色を合せて雑誌名を考えたとの説あり。

2・11（金）郡虎彦は『エレクトラ』を紹介することにする。（→M43・4「白樺」『エレクトラ梗概』）志賀家にオルガンが来て、郡が弾いた。午後、直哉は郡と共に里見弴の家に行く。田中雨村もいる。夕方、直哉は田中雨村・里見弴と日本橋に行き、天ぷらの立ち食いをし、花村で酒を飲む。（日記）

有島生馬が直哉に絵葉書を書く。シンガポールの消印、麻布二十四日の消印。（『志賀直哉宛書簡集』）

2・12（土）直哉は角海老楼の大巻の所に行き、咲に喘息煙草を上げる。酒を飲む。午後、大巻・寿・春と花札をする。（日記）

2・13（日）直哉は里見弴・正親町実慶と落語研究会に行く。里見弴の家に行き話す。吉田良貞が来る。里見弴は愛人が自分を初恋の人としていたことを前日知ったと動揺していた。帰宅後、直哉は大巻に手紙を書く。（日記）

2・14（月）午前、直哉は吉田良正を赤十字社病院に見舞う。午後、雑誌の会計の予算を立てて正親町公和の家に行く。武者小路実篤、里見弴も来る。（日記）

2・15（火）直哉は『冬の夜話（入院）』を書く。（日記）

武者小路実篤が直哉に葉書を書く。郡虎彦から『夢の日記』は日記の所だけ生かし前後は消してくれと言ってきたので、そうしておいて欲しいとのこと。（『武者小路実篤全集』）

2・16（水）　直哉は『小説　冬の夜話』を書き終える。（→後の『彼と六つ上の女』）（未定稿114）
午後、正親町公和と武者小路実篤が志賀家に来宅。回覧雑誌「白樺」五ノ五を出す。（日記）

2・17（木）　夜、直哉は里見弴の家に行く。（日記）

2・18（金）　直哉はレコードと喘息煙草を持って角海老楼の大巻の所に行く。（日記）

2・19（土）　午後、直哉は柳宗悦の家に行く。九里四郎と田中雨村が来る。夜、九里と柳が志賀家に来宅。蓄音機を聴く。九里は、ロダン号に岩村透が執筆してくれるだろうと言う。有島生馬は二十四日に神戸着とのこと。（日記）

2・20（日）　直哉の満二十七歳の誕生日。午前、里見弴が来宅。立花亭の落語を聞きに行く。夜九時頃、田中雨村の所に行く。（日記）

2・23（水）　夜、直哉は志賀英子・直三・淑子・隆子らを連れて浅草公園の曲馬と電気館の活動写真を見る。（日記）

2・24（木）　直哉は、帰国した有島生馬に誘われ里見弴と京都まで行こうとするが、有島武が怒っているので取り止め、すぐ帰るよう電報を打つことにする。正親町公和が雑誌の相談に来る。ふくの家に行き、酒を飲む。（日記）（里見弴『君と私』四十）

2・25（金）　夜八時半新橋着という電報が来たと聞き、直哉は、有島生馬を国府津まで里見弴と迎えに行く。樺山資紀海軍大将と連れ立つ有島生馬の姿に、直哉は違和感を覚える。直哉は楽に話が出来ない。有島生馬の家で十二時近くまで話す。（日記）（『蝕まれた友情』二）（里見弴『君と私』四十）

2・26（土）　武者小路実篤・正親町公和が志賀家に来宅。直哉は、夜、有島生馬を訪問し宿泊。里見弴のことも自分のこともすべて話し、有島生馬の話も聞く。（日記）

2・27（日）午後、直哉は里見弴から愛人妊娠の話を打ち明けられる。里見弴の子を皆の子のように可愛がる事を考えて嬉しい心持になる。有島生馬・里見弴の祖母の墓に詣でた後、一葉の墓へ詣でる。夜、有楽座の美音会に行く。里見弴から愛人流産を告げられる。（日記）（里見弴『君と私』四十一、四十二）（『暗夜行路』草稿12一）（『暗夜行路』草稿13三）

2・28（月）直哉は武者小路実篤の所に行き、有島生馬の所に行く。宝亭で有島家による接待。（日記）

3・1（火）直哉は里見弴・武者小路実篤と共に正親町公和の所に行く。夜、正親町公和・武者小路実篤と、有島生馬の所に行く。（日記）

3・2（水）志賀直方・峯・昇が夕方帰る。有島生馬・菅田敏光が志賀家に来宅。有島生馬は泊まり、直哉と四時まで話す。（日記）

3・3（木）直哉は、有島生馬の絵が届いたのを見に行く。（日記）（里見弴『君と私』四十三）

3・6（日）午後、直哉は里見弴の所に行く。夜、有島家で会。（日記）

3・7（月）午前、里見弴が志賀家に来宅。午後、直哉は有島生馬の所に行く。柳宗悦も来ている。磯谷商店へ里見弴・有島生馬と行く。里見弴と一緒に、田中雨村の家に寄り、玉突き。直哉は一人で神明に行き、田中雨村の女に会う。（日記）

3・8（火）直哉は午後、武者小路実篤の家に行く。広告のことで木下利玄を訪問するつもりで、武者小路実篤・正親町公和と共に里見弴を誘うが断られる。フィドゥスのカットが出来ている。（→M43・4「白樺」）夜、木下利玄の家に行き、広告の意匠をし、広告文を作る。（日記）

3・9（水）直哉は、午後、有島家に行く。前夜、有島生馬・里見弴の留守中に、有島家ではフィドゥスのカット代の立て替えのことで騒ぎがあったと聞く。有島武は直哉に対しても不快に感じているらしく、直哉もそれに対して不快を感じる。（日記）

3・10（木）午前、直哉は雑誌の相談で武者小路実篤の家に行く。正親町公和・細川護立・有島生馬・里見弴が来る。午後、田中

雨村が志賀家に来る。鶴本の女は田中雨村の女ではなかった。夜、柳宗悦が来宅。柳に直哉のこと、郡虎彦のことなどを皆話すが、柳は予想したほどショックを受けなかった。（日記）

3・11（金）　児島喜久雄の友達の紹介で、直哉は林忠正の遺族の家に印象派の絵を見に行く。九里四郎や山脇信徳、里見弴なども同行。モネ、ピサロ、ギョーマン、コラン、ドガ、ルノアールなどを見る。夜、里見弴と正親町公和が来宅。アブサンを飲む。夜食後、鶴本の女の所に行き、さらにふくの所に行く。（日記）（里見弴『君と私』四十三）

＊セザンヌの『廃屋』があった。（石原亨『証言　里見弴　志賀直哉を語る』）

＊この時から、山脇信徳とは友達になった。（座談会『志賀さんを囲んで』）

3・12（土）　直哉は、里見弴・正親町公和・木下利玄と雪見。浅草橋でサイダーに寄る。吾妻橋から汽船で小松川へ。帰り百花園に寄る。吾妻屋で飲む。婆芸者を呼んで馬鹿騒ぎをする。（日記）

3・13（日）　午後、郡虎彦が志賀家に来宅。直哉は郡に忠告をする。夕方、貸間を探したが、いい所がない。夜、九里四郎が来宅。蓄音機を聴く。（日記）

3・14（月）　直哉は蓄音機のレコードを持って、大巻の所に行く。姫衣も来て、蓄音機を聴く。咲の後の新造は、竹。雛妓の松子も来て、六代目菊五郎に名を呼ばれた話をする。この日聞いた姫衣が入院していた時のエピソードは、小説になると思う。酒を飲み過ぎて頭痛がする。帰り、柳宗悦の家に寄る。（日記）

3・15（火）　志賀直方が志賀家に来宅。夜、有島生馬が来る。直哉は、増井清次郎の話は面白いと思う。（日記）

3・16（水）　直哉は、有島生馬と共に新橋で志賀直方を送る。有島生馬からスザンヌの話を大分聞かされる。有島生馬と別れ、正親町公和の所に行く。夜、武者小路実篤・里見弴も来る。里見弴が十四日の晩、ふくの所に行って直哉の姓名を話したと聞き、不快になる。（日記）

3・17（木）　直哉は、氷川町の二畳を借りる。午後、菅田敏光が志賀家に来宅。夜、直哉は田中雨村の所に行く。武者小路実篤が

いる。里見弴も呼ぶ。（日記）

3・18（金）直哉は木下利玄・里見弴と木挽町の中島木版所に行く。花村で夜食後、里見弴とふくの所に行く。（日記）

3・19（土）直哉は朝、氷川町の部屋に行き、正親町公和の小説を読む。田中写真製版所から写真版が届く。（日記）

3・20（日）直哉は朝、氷川町の部屋に行き、小説を書く。午後、神田金樹が来て、蓄音機のレコードの代金を払う。夕方、正親町公和と神田を歩き、古本屋に明朝来てくれと言う。青木直介と会い、吉原をグルグル歩く。帰り、飛の家に行き、お栄と話す。（日記）

3・21（月）午前、志賀家に古本屋が来る。柳宗悦、武者小路実篤も来る。武者小路実篤にダンテ、ハウプトマン、ブルクハルトなどを買ってもらい、色々な本を売ったら五十七円二十五銭になる。午後、松平春光が来る。夕方から直哉は正親町公和の所に行って校正をする。夜、正親町公和、里見弴、田中雨村と神田に行き、ウォッカを飲む。（日記）

3・22（火）夜十一時頃、ゴミための脇の灰から火が出て、志賀家の塀が少し焼ける騒ぎ。（日記）

3・23（水）直哉は父の代理で青山家にお悔やみに行った帰り、正親町公和の家に行く。武者小路実篤と木下利玄がいる。再校がなかなか来ないので、田中雨村の所へ行く。（日記）

山脇信徳が直哉に手紙を書く。先日見た林忠正の印象派の絵について批評を書くと約束したが辞退したいとのこと。（『志賀直哉宛書簡』）

3・24（木）午後、直哉は青山家の葬式に行く。夜、青木直介が来て一緒に愛宕山、築地、佃島、洲崎と回る。直哉は自分の女の話をし、青木にもそういうことを勧める。（日記）

3・25（金）夜、直哉はインフルエンザの里見弴を見舞い、有島生馬と築地から洲崎へ行く。（日記）（里見弴『君と私』四十四）

3・26（土）午後、直哉は家族と一緒に三越に買い物に行く。（日記）

有島生馬が直哉に手紙を書く。直哉・細川護立・武者小路実篤のためにヨーロッパで買ってきた古銭などの費用の精

算リスト。（『志賀直哉宛書簡集』）

＊明治四十二年四月二日の有島生馬宛書簡で、ロダン自身の鉛筆画が百フランで手に入れられるなら、直哉・武者小路実篤・細川護立分の三枚頼みたいと言って送金した金で、有島生馬は古銭を持ち帰った。

3・27（日）　直哉は午後、お栄の所に行く。（日記）

3・28（月）　午後、木下利玄、郡虎彦が志賀家に来宅。夕方、神戸へ帰る郡を送る。「白樺」が出来たとの電話がかかり、直哉は正親町公和の所に行く。（日記）

「白樺」創刊号は、三百部か五百部発行。（座談会『「白樺」座談会』）

「白樺」は、印刷所が三秀舎、発行所が洛陽堂で、定価十八銭だった。（M43・4「白樺」）

3・29（火）　午後、直哉は正親町公和の所に行く。細川護立、田中雨村、園池公致らがいて、「白樺」のことで景気がよい。夜、里見弴を訪問。有島生馬と話す。（日記）（里見弴『君と私』四十四）

3・30（水）　午後、直哉は、園池公致と、園池が借りる貸間を探す。（日記）

3・31（木）　直哉は、武者小路実篤の家に行って、夏目漱石と高村光太郎からの葉書を見る。園池公致、里見弴、正親町公和も来る。午後、正親町公和、武者小路実篤と有島生馬の所に行く。有島生馬が関安子とのことを相談する。（日記）

郡虎彦が直哉に葉書を書く。雑誌二包落手、売上高はいずれ送るとのこと。（『志賀直哉宛書簡』）

3下旬頃まで叔父・佐本鎧蔵は総武鉄道に勤務。（川村渡『伊勢亀山・志賀直哉の文学』）

4・1（金）　直哉は、「白樺」第一巻第一号に『網走まで』、『「白樺」発刊に際して』（原題『発刊に際して』）を発表。（新『志賀直哉全集』①）

武者小路実篤が直哉に葉書を書き、「万朝報」に直哉の『網走まで』の評が出たと知らせる。（日記）（『武者小路実篤全集』）

4・2（土）　直哉は、ゴーリキー『モーラス・ヨーカイ』を少し読む。午後、里見弴が来宅。里見弴・児島喜久雄と共に武者小路実篤の家に行く。（日記）

4・3（日）　直哉は田中平一宛ての手紙に、女遊びをすることを書く。半杭直人が志賀家に来宅。『冬の夜の話』を改作しようと思う。夜、恵智十に小さん・小勝などの落語を聞きに行く。（日記）

4・4（月）　直哉は氷川町の部屋で『冬の夜話』を少し書く。三会堂のコスモス会洋画展覧会を見る。田中良と話す。正親町公和と木挽町の中島木版所に行き、ヴァロットンを九枚九円で頼む。（↓M43・5「白樺」木版九種）二人で洲崎。（日記）郡虎彦が直哉に葉書を書く。雑誌五十部落手、前のが全部は売れていない、直哉の“Theatre”“Current Literature”を送るとのこと。（『志賀直哉宛書簡集』）

4・5（火）　夜、柳宗悦が志賀家に来宅。（日記）武者小路実篤が直哉に葉書を書く。徳冨蘆花の『寄生木』評を「朝日新聞」に出そうと思ったが、ひとまずやめたとのこと。（『武者小路実篤全集』）

4・6（水）　午後、木下利玄が志賀家に来宅。（日記）直哉はコスモス会を見る。近藤浩「夏の光」が盗まれている。（座談会『コスモス画会合評』）武者小路実篤が直哉に葉書を書く。『代助と良平』を夏目漱石に送ったとのこと。（『武者小路実篤全集』）

この頃　志賀直哉・児島喜久雄・里見弴による座談会『コスモス画会合評』（↓M43・5「白樺」）を行う。画家ならではの或る瞬間を捕える事の必要性について発言。

4・7（木）　直哉は有島生馬と共に、島崎藤村を訪問。ゴーギャンの絵を借りるつもりだったが、絵は蒲原有明の所に行っていた。（日記）

4・8（金）　直哉は、蒲原有明を訪問。鈴木鼓村がいる。二人とも「白樺」のことを褒める。ゴーギャンの絵を借りる。武者小路

実篤の家に寄り、正親町公和の家に行く。木下利玄がいる。木下利玄と田中製版所に行き、ゴーギャンとセザンヌの絵を頼む。（→M43・5「白樺」ゴーギャン「タヒチの女」、セザンヌ「静物」）中島木版所に行き、有島武郎の書いた白樺という字の版を頼む。（→M43・5「白樺」扉）歌舞伎座で「鞍馬山祈誓掛額」と「雲暮夜入谷畦道」を立ち見。（日記）（『続々歌舞伎年代記』坤の巻）

4・9（土）　直哉は柳宗悦と青年会館でペッツォルト夫人、ユンケル、ウェルクマイスターの音楽を聴く。夕方から田村寛貞と有島生馬の家に行く。有島武は、今後問題が起こらないように、関安子と家族に田村寛貞と直哉に宛てて手紙を書かせる考え。（日記）

4・10（日）　夜九時、京都へ旅行する武者小路実篤と木下利玄を、直哉は里見弴と共に新橋駅に見送り、「時事新報」の「白樺」評を読む。（武者小路実篤・木下利玄『旅からの通信』M43・5「白樺」）（日記）

帰りに恵智十で小さん・小助六などを聞く。（日記）

有島生馬が直哉に絵葉書を書く。明夕は島崎藤村、蒲原有明、小山内薫が有島家に来るので、蓄音機持参で来てくれとのこと。（『志賀直哉宛書簡集』）

武者小路実篤が出発前に直哉に葉書を書く。二人宛の葉書は、京都市粟田口町三条坊四十番地ノ一、木下春子氏方宛に出して欲しいとのこと。（『武者小路実篤全集』）

4・11（月）　神田金樹が蓄音機のレコードを志賀家に持ってきてくれる。午後、直哉は有島生馬の家に行く。蒲原有明、島崎藤村が来る。有島武郎、里見弴も一緒に話す。夜食後、蓄音機を聴く。（日記）

岐阜にて武者小路実篤と木下利玄が、直哉に絵葉書を書く。（『武者小路実篤全集』）

4・12（火）　相馬の野馬追いの行列を見に、志賀留女・浩が相馬家に出かけた留守に、直哉は初めて自宅から大巻の所に電話をかける。十一時頃、大巻の所に行く。夜、林三郎を訪ね、吉原通いの話をする。（日記）

4・13（水）午後、直哉は有島生馬の家に行く。正親町公和も来ている。蓄音機を聴く。「白樺」第二号の原稿を集めたので、『七義の望』『箱根山』を出す。有島生馬と話し、直哉らと関安子が会う必要はないということになった。夕方、正親町公和と田中雨村を訪問。田中雨村と園池公致が小田原で女遊びをしたと聞く。（日記）

武者小路実篤が白樺編纂事務所宛に、番外通信の葉書を書く。（『志賀直哉宛書簡』）

有島生馬が直哉に絵葉書を書く。（『志賀直哉宛書簡集』）

4・16（土）午後、直哉は里見弴と正親町公和の家に行く。夕方、有島生馬の家に行く。一人で赤坂の待合に行き、喜代志という家の芸者を呼ぶ。（日記）

木下利玄が御影の郡虎彦の家にて、武者小路実篤・児島喜久雄と寄せ書きで、直哉に葉書を書く。（『志賀直哉宛書簡』）

4・17（日）市川の関安子の家を、直哉は田村寛貞・有島生馬と訪ね、婚約破棄について話をつける。有島生馬はもう少しこの事件について神経質でもいいと思う。祖母・佐本ふくを訪問。佐本家の貧になれた人々は打撃を余り感じていないらしいと思う。（日記）（里見弴『君と私』四十六）

直哉は、大阪市梅田郵便局留置で、武者小路実篤・木下利玄宛の手紙を書く。今日から有島生馬と房総を一週間ほど歩こうかと話したが都合でやめた、月末か月初めに赤城へ行こうと思う、など。（M43・4・17武者小路実篤・木下利玄宛書簡＊新全集ではM45のものとされているが間違い。）

4・18（月）直哉は、関家との話し合いの結果を里見弴にし、有島幸子に伝えて貰う。正親町公和を訪問。園池公致を訪問。園池公致の探していた家が見つかったというので、中洲に見に行く。（日記）（里見弴『君と私』四十六）

郡虎彦が直哉に葉書を書く。武者小路実篤・木下利玄が来て、一緒に大阪で文楽を見た、直したいので誰かの所に自分の『ペスト』（→M43・7「白樺」）『莫の日記』（→M43・8「白樺」『獏の日記』）があったら送って貰って欲しいとのこと。（『志賀直哉宛書簡集』）

奈良にて、武者小路実篤が直哉に絵葉書を書く。（『武者小路実篤全集』）

4・19（火）　直哉は、両眼を失った軍人・柴内を見舞う。角海老楼の大巻の所に行き、大巻に物足らぬものがあるので、二、三ヶ月あるいは半年来ないと言う。浅草の活動写真を見て帰る。（日記）

4・20（水）　午前、柳宗悦が志賀家に来宅。午後、二人で正親町公和を訪ね、武者小路実篤を訪問。里見弴・園池公致・正親町公和も来る。夕方、田中雨村を訪問。有島生馬から、湯浅一郎が来ていると電話で誘われ、有島家を訪問。（日記）

4・21（木）　有島生馬が直哉に絵葉書を書く。（『志賀直哉宛書簡集』）

4・22（金）　朝、志賀直方が志賀家に来宅。午前、武者小路実篤、松平春光、柳宗悦、森明が来宅。武者小路実篤は道徳のためなら命を捨てられるというが、直哉は自分に唯一の道徳という意味以外は道徳というものを信ずることは出来ないと思う。夜、直哉は柳宗悦と近所の寄席に義太夫を聴きに行く。美光の「恋飛脚大和往来」（新口村）、広之助の「三十三間堂棟由来」（柳）、文字之助の「絵本太功記」十段目（太十）。（日記）

有島生馬が直哉に絵葉書を書く。直哉の『速夫の妹』『ダイナマイト』を読んでの感想。（『志賀直哉宛書簡』）

4・23（土）　直哉は、朝の新聞で荻原守衛、マーク・トゥエン死去を知る。夕方、九里四郎の所に行く。（日記）（里見弴『君と私』四十五）

4・24（日）　午後、直哉は正親町公和の所に行く。夜、昨年十月『殺人』として書いたものを『剃刀』と改めて書き出した。（日記）

4・25（月）　直哉は『剃刀』執筆。芳三郎が若者を殺す前まで書いて十二時頃寝る。（日記）

4・26（火）　直哉は朝七時頃から『剃刀』を書き出して完成。有島生馬に誘われ、午後から鎌倉。（日記）

午前三時頃、隣家の大鳥六三が西洋剃刀にて自殺。九時頃、家族が発見。（M43・4・28「東京朝日新聞」）（M43・4・28「東京日日新聞」）

郡虎彦が直哉に葉書を書く。神戸では「白樺」はほとんど売れない、二号は郡の所へ三十部、岡山へ三十部送って欲しいとのこと。（『志賀直哉宛書簡』）

4・27（水）直哉らは午前、鎌倉を出、横浜へ。有島生馬が橋本邦助のフランス渡航を見送る間、直哉と志賀直方はガイザーに行く。帰宅後、大鳥六三の自殺の話を聞く。（日記）

京都にて木下利玄が直哉に、明日帰京との葉書を書く。（『志賀直哉宛書簡集』）

4・28（木）午後から、直哉は森明の所に行く。「福音新報」に出した『きみよ』という小説を見せられる。帰途、有島生馬の家に行く。武者小路実篤も来ている。大鳥六三自殺の新聞記事を読む。（日記）

この頃か？　直哉は森明に、『きみよ』を批評する手紙を書く。（M43？　森明宛書簡）

4・29（金）朝、柳宗悦が志賀家に来宅。晩、直哉は両国向こうの小待合に行き、正親町公和の所に行く。「白樺」第二号完成。四号は創作号にするという案が出た。（日記）

4・30（土）午前、直哉は正親町公和の所に行って雑誌発送を手伝う。午後、志賀直三・淑子・隆子を連れて子供博覧会に行く。夜、九里四郎が志賀家に来宅。山脇信徳に細川護立の家に飾る絵を頼んでくれと言われる。一幕物のドラマを考える。（日記）

5・1（日）直哉は、「白樺」第一巻第二号に、「小品六篇」の一つとして『箱根山』を発表。『第七義の望』を「日本武夫（ヒノモトタケヲ）の息（ムスコ）」の署名で発表。児島喜久雄・里見弴と共に『コスモス画会合評』を発表。（新『志賀直哉全集』①）

＊M43・4「白樺」の「消息」には、二号の創作欄に出す武者小路実篤の脚本（『ある家庭』）が紙数を多く取るため、他に長いものを出せないので、五、六人の小品文を集めて出す事を考えているとある。

直哉は田中雨村の所に行く。園池公致がいる。武者小路実篤の所に行き、共に三島弥吉の家に行く。（日記）

神戸の郡虎彦が直哉に絵葉書を書く。本屋と交渉したところ、二号からは買い手が出るという話なので「白樺」は五

十部送ってくれ、『ペスト』を書き直したから送る、とのこと。（『志賀直哉宛書簡』）

5・2（月）　直哉は正親町公和の所に行き、ゴーギャンの絵を受け取って蒲原有明の所に返しに行く。有島生馬の家に行く。九里四郎・正親町公和・武者小路実篤がいる。松平春光も来る。里見弴と正親町公和を連れて帰宅。柳宗悦、福本初太郎が志賀家に来宅。（日記）

5・3（火）　直哉は里見弴と共に頭を丸坊主にする。（日記）（里見弴『君と私』四十五）

有島生馬が直哉に絵葉書を書く。この頃になって急に独りでも展覧会がやってみたくなったとのこと。（『志賀直哉宛書簡集』）

郡虎彦が直哉に葉書を書く。待っても来ないので手紙を出したら入れ違いに届いた、『ペスト』や新体詩について。（『志賀直哉宛書簡集』）

5・4（水）　直哉は磯谷でオリヴィエーの額縁を頼み、里見弴・園池公致と共に木版屋に行き、ビアズレーの木版五つを頼む。（↓M43・6「白樺」）田中雨村を訪問。夜、武者小路実篤と柳宗悦が来る。武者小路実篤『或る家庭』を文明堂が出版させてくれと言っていると聞く。（日記）

5・5（木）　直哉は『剃刀』を直す。（日記）

＊直哉は、座談会『志賀直哉縦横談』で、『剃刀』はビアズレーの詩と似ていると言っている。

郡虎彦が直哉に葉書を書く。この間は「白樺」を五十部注文したが三十部しか来なかったので、あと二十部至急送って欲しいとのこと。（『志賀直哉宛書簡』）

5・6（金）　直哉は午前、佐藤医院。写真版・木版を注文。里見弴、園池公致を訪問。夜、神田金樹が志賀家に来宅。（日記）

武者小路実篤が直哉に葉書を書く。出版社から八日に来ると手紙が来たとのこと。（『志賀直哉宛書簡』）（『武者小路実篤全集』）

5・7（土）夕方から三河屋で睦友会。直哉は『剃刀』の結末を直す。（日記）

5・8（日）直哉は朝、医者に行き、武者小路実篤の所に行く。文明堂の主人が来ている。常磐木倶楽部の落語を聞く。小せん、小助六、円蔵、円右。（日記）

5・9（月）午後、直哉は正親町公和の所に行ってから角海老楼の大巻の所へ三週間ぶりに行く。（日記）武者小路実篤が直哉に葉書を書く。直哉からの手紙を読んだ、猫の話は直哉が誤解しているとのこと。（『武者小路実篤全集』）

5・10（火）午前、武者小路実篤が志賀家に来宅。直哉と一緒に九里四郎の所に行く。（日記）

5・11（水）夜、直哉は恵智十の落語を聞きに行く。（日記）

5・12（木）午後、直哉は武者小路実篤の所に行く。里見弴・木下利玄・有島生馬・田中雨村・園池公致も集まる。四つ目の牡丹を見に行く。（日記）

5・13（金）直哉は里見弴と白馬会を見る。里見弴と根岸から三の輪、千住まで歩き、夜は吉原に行く。中米楼のお職・小太夫を非常に美しく思う。千束町まで来て里見弴が「白樺」の金を持っている事を知り、吉原に引返し、中米楼に上がる。初めて一緒に登楼した。後で里見弴に別れ大巻の所に行く。（日記）（里見弴『君と私』四十五）

5・14（土）直哉は大巻たちと一緒に湯に入る。新造の千代と春に大巻の洋服を着せて騒ぐ。昼頃、角海老楼を出て、里見弴の所に行き、正親町公和の所に行く。文明堂で直哉の本を出したいと言ったと聞く。（日記）

5・16（月）午前、直哉は区役所に行って徴兵の件を聞く。夕方、神田金樹、有島生馬が来る。（日記）

5・17（火）午後、直哉は有島生馬と正親町公和の所に行く。柳宗悦・有島生馬・直哉で武者小路実篤の本の表紙にする紙を探す。（日記）

伊東にて園池公致が直哉に葉書を書く。十八日の消印。（『志賀直哉宛書簡集』）

5・18（水）　直哉は里見弴と明治座で「鳴神」の芝居を見る。二世市川左団次が復活上演したもの。乞食の踊りを見る。（日記）（里見弴『君と私』四十八）（『続々歌舞伎年代記』坤の巻）

5・19（木）　直哉は朝、正親町公和の所に行き、武者小路実篤・木下利玄も共に白馬会に行く。（日記）

5・21（土）　直哉は切りためた薔薇の花束を大巻に贈る。森明を訪問して小説の事で話。（日記）

5・22（日）　午前、直哉は武者小路実篤の家に行き、洛陽堂に大売捌きのことで行く。午後、有島生馬を訪問。夕方から里見弴と銀座の屋台で夜食をし、仙女香の鉄の棒に腰掛け、梅園で桜羹と塩餡を食べる。（日記）（里見弴『君と私』四十八）

5・25（水）　郡虎彦が直哉に葉書を書く。“Current Literature”を非常に長く失敬した、直哉の徴兵が心配、「白樺」は先の通り送ってくれ、但しそちらに需要が多かったら神戸へ四十、岡山へ三十でいいとのこと。（『志賀直哉宛書簡』）

5・26（木）　直哉は校正のため正親町公和の所に行く。夕方から志賀留女・直三・淑子と有楽座の「小公子」を観る。（日記）（『続々歌舞伎年代記』坤の巻）

5・27（金）　直哉は、里見弴の事について、有島生馬と激しく議論する。（日記）（里見弴『君と私』四十六）（『蝕まれた友情』三）

5・28（土）　直哉は細川護立と自由劇場第二回公演を観に有楽座に行く。「出発前半時間」「生田川」チェーホフ「犬」。（日記）（『続々歌舞伎年代記』坤の巻）

5・29（日）　直哉は角海老楼の大巻の所に行く。千代・春とも話す。（日記）

児島喜久雄が直哉に葉書を書く。承知した、画でない方はとても書けない、とのこと。（『志賀直哉宛書簡集』）

5・30（月）　直哉は里見弴と園池公致の所に行く。夜、武者小路実篤・有島生馬が来る。（日記）

5・31（火）　小杉吉也が志賀家に来宅。「白樺」第三号完成。直哉は夕方から有島生馬の家に行って岩倉道倶と会う。（日記）

6・1（水）　直哉は、「白樺」第一巻第三号に、『剃刀』、『「剃刀」の後に』、「（N生）」の署名で『白樺編輯室にて　一』（原題『編輯記事』）を発表。（新『志賀直哉全集』①）

『白樺編輯室にて　一』に、琅玕洞の正宗得三郎の展覧会を見たとの記述あり。

6・5(日)　直哉は、氷川町に借りていた家を引払う。(日記)

6・7(火)　直哉は武者小路実篤・園池公致と里見弴を訪問。田中雨村が山王台に借りた家を見に行く。正親町公和『若芽の時』と柳宗悦『諺』を読み、前者に酷い評を送る。(日記)

6・8(水)　直哉は柳宗悦の『心語り』(→M43・7「白樺」)を見て批評しに行く。銀座を散歩後、神明でふくが出てきて何か言っているのを見かける。(日記)

6・9(木)　夜、直哉は武者小路実篤を訪問後、田中雨村を訪問。病気について注意をする。(日記)

6・10(金)　直哉は午前、里見弴を訪問。午後、有島生馬の油絵と児島喜久雄のエッチングを持って田中写真版屋へ行き、木版屋にも行く。(→M43・7「白樺」有島生馬「習作(伊太利の男)」、木版六種、児島喜久雄「風景」)里見弴に自分の長篇の話をする。(日記)

6・11(土)　直哉は『離縁』を『孤児』と改題して書く。(日記)

6・14(火)　武者小路実篤が直哉に封書と葉書を書き、『出来事』についての考えを述べる。(『武者小路実篤全集』)

6・19(日)　武者小路実篤が直哉に葉書を書く。今日、太平洋画会に行く、マルタンは一見の必要あり、とのこと。(『武者小路実篤全集』)

6・20(月)　直哉は午後、田中雨村の所で玉突き。九時近くになって角海老楼の大巻の所に行く。(日記)

6・21(火)　直哉は午前、太平洋画会に行き、マルタンの絵を見る。有島生馬と一緒に博物館に行き、陳列館借り受けの約束をする。有島家で絵を選ぶ。夕方、里見弴と磯谷に行き、中洲から渡しに乗り、中流で泳ぐ。洲崎の米河内楼の鶴巻の所に行く。(日記)(里見弴『君と私』四十八)

6・22(水)　午前、直哉は正親町公和の所で校正をする。夕方から有島生馬の所に行く。磯谷の主が来る。広告文を作る。(日記)

6・23（木）　直哉は正親町公和の家に行き、展覧会の広告原稿を渡し、小説の再校をする。里見弴と田中雨村の所へ行き、玉突き。夏目漱石『門』を読む。（日記）

6・24（金）　午前、柳宗悦が志賀家に来宅。午後、直哉と柳宗悦は正親町公和の所に行く。夜、直哉は、翌日の徴兵検査のことが少し不安になる。初めて新宿の女郎屋に行く。（日記）
武者小路実篤が直哉に葉書を書く。（『武者小路実篤全集』）

6・25（土）　直哉は、徴兵検査で甲種合格。武者小路実篤・里見弴・木下利玄・正親町公和・田中雨村らが来てくれる。夜、散歩。十二時頃、正親町公和と梅月に行くが、お愛がいないので帰宅。（日記）
未定稿244『徴兵忌避』によれば、《大学に入つてゐれば数え年の二十八までは徴兵猶予といふ事があり、私は大学二年で事実上中途退学したが、猶予は徴兵ぎり〳〵までするつもりで、籍だけは大学に置いてゐた。（中略）私の検査は六月二十五日に麻布区役所の二階の広い部屋で行はれた。私は何といふ事なしに免除になるやうな気がしてゐた。（中略）私達は次ぎから次ぎと体重、身長などの検査を受け、仕舞ひに四這ひになつて、尻の穴まで見られた。そしていよ〳〵最後に中尉の前に行つて、合格不合格の判を貰ふのだが、私は甲種合格の判を捺された。私は何故か、非常に意外な感をした。》とある。

6・26（日）　直哉は正親町公和と話す。里見弴、松平春光、神田金樹、青木直介、柳宗悦なども来る。（日記）

6・27（月）　直哉は有島生馬の所に行く。里見弴と、中島木版所、田中写真製版所、磯谷に寄る。（日記）
武者小路実篤が裏松友光と共に、直哉に葉書を書く。（『武者小路実篤全集』）

6・28（火）　直哉は有島生馬のカタログ序文を作る。（→『有島壬生馬兄足下』＊パンフレットでは、末尾に《明治四十三年六月二十六日》と記されている。）吉田良正が志賀家に来宅。夜、有島生馬の所に行き、絵の定価を決める。（日記）

6・29（水）　午後、直哉は正親町公和の所に行く。「白樺」第四号完成。川村弘の家に行き、杉山得一を訪問。主計生について聞

く。（日記）

6・30（木）　直哉は区役所で主計生の試験がないと聞き、主計生にはなれないことが分かる。角海老楼の大巻の所に行く。正親町公和の所に行き、有島生馬と里見弴を誘い、上野の会場に行ってプランを立てる。太田登志彦の家に寄る。（日記）